

LIXIL

ギャラリー

# 種子のデザイン展

## 旅するかたち

SEED DESIGN : SHAPES FOR TRAVELING



写真1：ツノゴマ

2本の鋭いツノで動物の毛にからまったり、脚を挟んだりしてついていく。また、通りかかった旅人が知らずに踏んでケガをする。「悪魔の爪」あるいは「旅人泣かせ」などとも呼ばれるひつきむし。

撮影 / 佐治康生 所蔵 / 大阪市立自然史博物館

### 巡回展会期

名古屋展 INAXギャラリー名古屋

会期：2011年9月9日(金)～11月17日(木)

休館日：水曜日

東京展 INAXギャラリー1

会期：2011年12月1日(木)～2012年2月25日(土)

休館日：日祝日、年末年始

大阪展 LIXILギャラリー大阪

会期：2012年3月10日(土)～5月24日(木)

休館日：毎週水曜日 臨時休館あり

\*2012年3月1日付でINAXギャラリーは「LIXILギャラリー」と名称変更いたしました。

<http://inax.lixil.co.jp/gallery/>

2011年8月

## 開催概要

タイトル: 種子のデザイン 旅するかたち

英語タイトル: SEED DESIGN : SHAPES FOR TRAVELING

企画: LIXIL ギャラリー企画委員会 制作: 株式会社 LIXIL

協力: 大阪市立自然史博物館、岡本素治、兵庫県立人と自然の博物館

入場料: 無料

開場時間: 10:00 ~ 17:00 (大阪展、名古屋展)、10:00 ~ 18:00 (東京展)

WEB サイト: <http://inax.lixil.co.jp/culture/>

# 種子のデザイン 旅するかたち

いま地球上にある多くの植物が、子孫を残す手段として種子を作ります。

日常生活のなかで目にする野菜や果物、穀類、あるいは街路樹や公園の草木に、われわれはあたりまえにその姿を見ることができ、さほど意識せず触れてもいます。しかし考えてみると種子は、食べられる果実をまとうもの以外にも、タンポポのように綿毛のあるもの、ひっつきむしのようにくっつくもの、ヤシのように繊維質で水に浮かび漂流するものなど、バラエティに富んだ形状をしています。どうしてこのような姿をしているのでしょうか。

本展では、私たちに身近なものから驚くような身なりをもつ世界のものまで、種子のかたちを、機能との関わりから考えます。

その関わりとは？植物は、広く多様な環境に生き残るため、自身では動くことのできないかわりに、種子のかたちにさまざまな戦略を講じています。そして、風、水、火、動物、自力といった自然の力を利用して、次世代を残すという大きな役割とともに飛び立つのです。

種子たちが遠くに旅立つ手段として、一番多様性に富んでいるのは風に乗る方法です。グライダー発明の元になった、滑空する種子アルソミトラ、羽根つきのような羽根で回転しながら落下するフタバガキ、風に舞い水に浮く二段仕込みの散布方法をとるスカフィウムなどが一例です。水を利用するものには、マングローブの森で親木に守られて芽を出し、ほどよい大きさに育ったところで水の流れに乗り、根付く場所を探すオヒルギやメヒルギがあります。あるいは山火事の多いオーストラリアやニュージーランドでは火の力を借りるものもいます。何年もの眠りを経て、火事の発生とともに熱の力で目覚め、散布されるハケアやバンクシアなどがそうです。また、希少な自力散布の種子として、世界でもセイシェル諸島にしか生息せず、長径が30センチを越す、世界最大の種子フタゴヤシの迫力ある姿もユニークな存在です。

以上のほか、身近な種子の中も、蝶のような翼をつけて浮遊するキリ、プロペラをつけて舞い降りるカエデなどは、風散布の工夫を見事に纏った形状でしょう。じっくり見るとトゲの先がフック型になっているオオオナモミは、一度動物にくっつくとも離れません。

会場では、国内外から集められた種子100点以上の実物標本を、散布方法ごとにコーナーを設けてご覧いただけます。その他、細部に寄った写真、飛行映像などで、その生態とデザインの見事な融合をご紹介します。

今展ではときにつつましく、ときにはしたたかに、次世代を残す旅に出る種子たちの工夫に満ちたかたちを存分にお楽しみいただけることでしょう。どうぞご期待ください。

写真 2

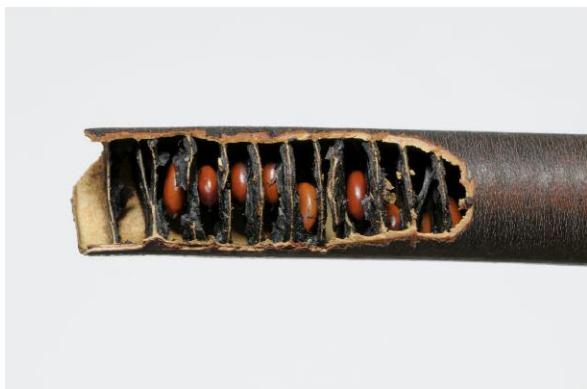


写真 3



写真 4



写真 5



写真 6



- 写真 2 ナンバンサイカチ** 種子がびっしりと並ぶ莢。  
種子は一つずつ薄い膜に遮られ、甘い果肉（黒く乾燥した部分）で包まれる。
- 写真 3 スカフィウム** 舳先の部分に種子が乗り、ここが重心となって回転する。
- 写真 4 キリ** 羽を広げた蝶のような翼をもつ。木は高さ 10m ほどになり葉も大きいのが、  
種子本体は 3mm ほどで、ごく小さい。
- 写真 5 トウビシ** ヒシの最初に出た根は地中に伸びずに水中に伸びていくため、  
種子には茎を水底に固定する錨が必要。
- 写真 6 アルソミトラ** 羽のかたちはグライダー設計の元になった。直径 20cm ほどのヘルメット型の果実に  
400 個ほどの種子が入っていて、熟すと種子が一枚ずつ飛び出してくる。

所蔵 / 写真 2 . 3 : 大阪市立自然史博物館 写真 4 . 5 : 兵庫県立人と自然の博物館 写真 6 : 岡本素治  
撮影 / すべて佐治康生

使用写真は全て下記ウェブサイトのプレスリリースよりダウンロードして頂けます。

[http://inax.lxil.co.jp/gallery/exhibition/detail/d\\_001949.html](http://inax.lxil.co.jp/gallery/exhibition/detail/d_001949.html)

\*容量が足りない場合は、担当者までお問合せください。

## LIXIL BOOKLET 『種子のデザイン 旅するかたち』

(72ページ、定価 1,575 円、9 月中旬発売予定)

### 内 容

[図版構成] 風に乗って旅に出る  
漂流する冒険者たち  
動物とのたくみな駆け引き

[論考] 「種子のかたちと機能」(仮) 岡本素治(きしわだ自然資料館館長)  
「葉っぱを工夫した種子の旅支度」(仮) 小林正明(飯田女子短大教授)  
「時を超える旅人」(仮) 脇山桃子(森林インストラクター)

- 本件に関するお問い合わせ -

名古屋 担当:大原

TEL:052-201-1716 FAX:052-201-1730

〒460-0003 名古屋市中区錦 1-16-20 LIXIL 名古屋ショールーム水まわり館 B1

東京 担当:箕

TEL:03-5250-6530 FAX:052-201-1730

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-6-18 LIXIL:GINZA 3F

大阪 担当:高橋

TEL:06-6733-1790 FAX:06-6733-1791

〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町 4-1-3 伊藤忠ビル 1F LIXIL 大阪水まわりショールーム内